

平成28年度こんにやく原料需給計画

(単位:精粉20kg/袋)

項目	需要量 (消費量)	供給量					期末在荷量
		期初在荷量	国内生産量		輸入量	供給量合計	
			生産量	春切り量			
年度(28.11~29.10)							
計画値計算式	a:注2①参照	b:前年期末	c:実績	d:前年並	e:注2⑤⑦参照	f=b+c+d+e	g=f-a
原料(国内・輸入)数量見込	276,200	146,900	321,500	5,000	11,000	484,400	208,200
(前年度実績)	280,300	142,000	263,600	5,000	16,600	427,200	146,900
製品 輸入数量見込	29,900				29,900	29,900	
(前年度実績)	28,100				28,100	28,100	
合計	306,100	146,900	321,500	5,000	40,900	514,300	208,200
(前年度実績)	308,400	142,000	263,600	5,000	44,700	455,300	146,900
前年比(%)	99.3%	103.5%	122.0%	100.0%	91.5%	113.0%	141.7%

注1)ラウンドしているため加減があわないことがある。

注2)算出方法は以下のとおりである。なお、③は平成27年度需給計画から、①、⑤、⑦は平成28年度需給計画(本計画)から変更している。⑥は平成26年度以前の需給計画における推定方法に戻している。また、生産量、在荷量に関しては平成27年度からの計算方法の変更に伴い21年度まで遡って再計算しているため、平成27年度以降のこんにやく原料需給計画は、それ以前に作成された計画の数値とは連続しない。

①合計需要量は21から27年度の実績を基に回帰式を求め、この予測値から306,100袋とした。

原料需要量は合計需要量から製品需要量(=製品輸入量)を引いて208,200袋とした。

②期初在荷量は、平成27年度期末在荷量146,900袋とした。

③生産量は、平成28年産(74,866トン)から算出(74,866×1,000×歩留(8.589%)÷20kg=321,512)し、321,500袋と見込んだ。

④春切り量は、前年並みの5,000袋と見込んだ。

⑤原料輸入量は、11月から2月における28年度の輸入実績の前年度比増減率(-33.7%)を前年度1年間の原料輸入量に乗じて11,000袋とした。

⑥期末在荷量は、原料供給量合計(484,400袋)から原料需要量(276,200袋)を差し引いた、208,200袋とした。

⑦製品輸入数量は原料輸入量と同様に、11月から2月における28年度の輸入実績の前年度比増減率(6.2%)を前年度1年間の製品輸入量に乗じて29,900袋とした。